1983
館林市立資料館年報 1

沿　革

館林市第一資料館

昭和52年１月　市立図書館内設置の郷土資料室拡張のため、同敷地内に付属の郷土資料館の建設が決定。

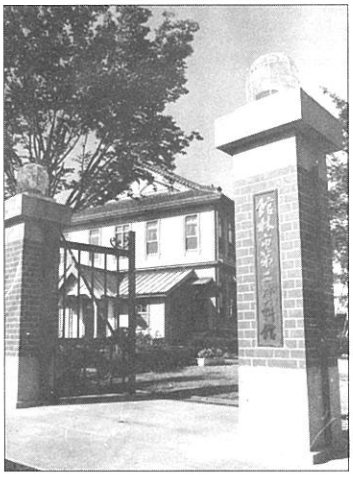
昭和52年10月　郷土資料館新築工事(～S53.3)

昭和53年11月　郷土資料館開館

昭和56年４月　館林市立資料館の設置に伴い、市立図書館より独立。名称を館林市第一資料館とする。



館林市第一資料館



館林市第二資料館

館林市第二資料館

昭和52年12月　旧上毛モスリン事務所の保存活用の要望

昭和53年６月　旧上毛モスリン事務所、神戸生絲(株)より館林市へ無償譲渡される。

昭和53年10月　旧上毛モスリン事務所、群馬県の重要文化財に指定される。

昭和54年３月　「歴史の森」構想に基づき、旧上毛モスリン事務所および田山花袋の旧居の移転場所決定。

昭和54年11月　旧上毛モスリン事務所保存修理工事（～S56.3）（曳移転・外装・内装）

昭和56年４月　館林市立資料館の設置に伴い、「歴史の森」地内を館林市第二資料館とする。

昭和56年８月　田山花袋の旧居移築保存工事（～S56.11）

第二資料館管理棟新築工事（～S56.10）

昭和56年11月　第二資料館展示設備工事。

昭和56年12月　第二資料館開館

昭和59年２月　群馬県教育委員会より、博物館に相当する施設として指定される。

展示活動　入館者

〈特別展等および入館者（昭和56・57・58年度）〉

年度	展示名（展示場所）	期　間	目　的	入館者数（児童生徒数）
				名
56	文化財パネル展 館林とツツジ （第一資料館）	S56・4・26 〜 S56・5・30	国指定名勝〝つつじヶ岡〟の開園時期に合わせ、文化財の正しい理解と愛護思想の高揚を図る。	2,026 (1,154)
	くらしの友朋（ともがら） 民俗民具展 （第二資料館）	S56・12・1 〜 S57・3・21	地域史の根底を支えてきた庶民のくらしと歴史にスポットをあて、生活推移を語る資料から現代に受け継ぐべき知恵やわざを学び、民俗文化財の正しい理解を図る。	4,938 (2,255)
57	文化財パネル展 館林とツツジ （第二資料館）	S57・4・15 〜 S57・5・31	国指定名勝〝つつじヶ岡〟の開園時期に合わせ、文化財の正しい理解と愛護思想の高揚を図る。	16,559 (3,603)
	神へのいざない 神楽展 （第二資料館）	S57・7・4 〜 S57・9・26	現代に受け継がれる民俗芸能としての神楽を理解し、根底に流れる大自然と人々の関わりや民衆の歴史と心を見つめ直す。	2,445 (1,183)
	時代を超えよ 藤牧義夫展 （第一資料館）	S57・9・23 〜 S57・12・12	ふるさとを描き、彫り続けた芸術家藤牧義夫の目を通した郷土の風景を知ることで、郷土とは何かを問う。	2,492 (1,100)
	大地の証言 大袋遺跡展 （第一資料館）	S58・1・22 〜 S58・5・15	縄文時代に生きた人々の足跡を追いながら、発掘調査の成果を公開するかたわら、館林の原風景と地域を活かす〝生き方〟を探る。	3,815 (2,258)
58	文化財パネル展 館林とツツジ （第二資料館）	S58・4・10 〜 S58・6・19	国指定名勝〝つつじヶ岡〟の開園時期に合わせ、文化財の正しい理解と愛護思想の高揚を図る。	16,749 (3,930)
	木霊（こだま）に訊（と）う 山間民俗展 （第一資料館）	S58・6・19 〜 S58・9・11	低地館林とは土地柄の全く違う山間部（県内）の民俗を紹介することで、より一層館林の地域特質を理解する。	4,281 (2,726)

年度	展示名（展示場所）	期　間	目　的	入館者数（児童生徒数）
				名
58	怒濤（どとう）に鳴（な）れ 田中正造展 （第一資料館）	S58・10・2 〜 S58・12・18	水の事件史〝足尾鉱毒事件〟を通して、田中正造とともに地域を守り続けた人々をクローズアップし、現代的な視野から日本史と地域史との接点を見い出す。	4,703 (3,112)
	よみがえる槌音（つちおと） 館林城展 （第二資料館）	S58・12・18 〜 S59・3・20	城と城下町が築かれた背景から、現在の館林の町づくりの原点を探り、未来に受け継がねばならない〝地域に生きる工夫〟を学ぶ。	3,398 (1,725)
	第1回 新収蔵資料展 （第一資料館）	S59・2・5 〜 S59・5・13	過去3年間における新収蔵資料の公開により、資料館活動の基本と役割を理解する。	2,101 (1,005) 但し、3月31日までの入館者数
	移動展示室 「田中正造展」 （渡瀬公民館）	S59・1・21 〜 S59・4・9	特別展として行ったものから特に地域と係りの深いテーマを選び地域に導入することで、資料館活動と地域学習との一体化を図る。	3,669 (500) 但し、公民館利用者数

〈年度別利用者状況〉

年度	第一資料館（児童生徒数）	第二資料館（児童生徒数）	総利用者（児童生徒数）
56	11,227名（8,052名）	4,938名（ 2,289名）	16,165名（10,341名）
57	8,887名（4,898名）	27,242名（10,925名）	36,129名（15,823名）
58	12,912名（7,422名）	27,473名（ 8,598名）	40,385名（16,020名）

（但し、移動展示室は除く）



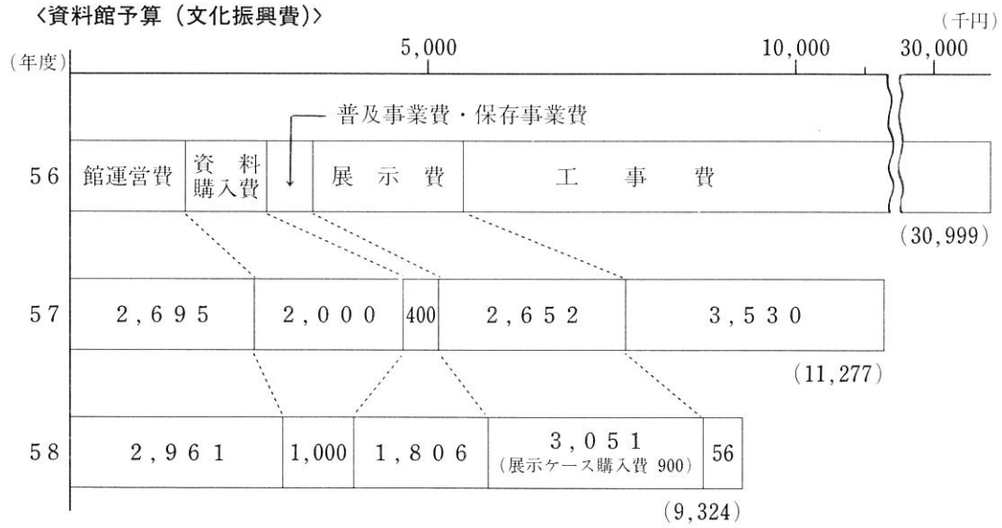
市内小学生の見学



移動展示室

予　算　収蔵資料

〈資料館予算（文化振興費）〉



〈収蔵資料〉

	引継資料	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	合　計
考　古	2，816点	2点	57点	70点	2，945点
歴　史	611	81	4	134	830
民　俗	140	1，159	218	338	1，855
文　学	65	2	15	4	86
芸　術	198	8	5	2	213
動　物	239	——	——	1	240
植　物	2	——	——	——	2
地　質	37	——	——	——	37
飯塚多右衛門コレクション	——	4，808	——	——	4，808
合　計	4，108	6，060	299	549	11，016

	寄贈資料	購入資料	保管委託資料	採取・その他	合　計
引継資料	551点	31点	170点	3，356点	4，108点
昭和56年度	6，058	2	——	——	6，060
昭和57年度	289	10	——	——	299
昭和58年度	408	12	——	129	549

施　設

館林市第一資料館

位　置　館林市城町3番1号

構　造　鉄筋コンクリート構造　2階建

規　模　敷地面積　311.19㎡（図書館共有部分を含む）

建物面積　285.93㎡　建物延面積　516.93㎡

設計・管理　館林市役所建設部建築課

施　工　河本工業株式会社

工　期　着工　昭和52年10月12日　完工　昭和53年3月10日

総工費　91,667（千）円　（県費補助　2,000（千）円）

施設内容　展示室　297.0㎡（1階 165.0㎡　2階 132.0㎡）　管理室　7.88㎡

収蔵庫　58.13㎡（1階 25.13㎡　2階 33.0㎡）　機械室 他　153.92㎡

館林市第二資料館

位　置　館林市城町2番3号

構　造　（管理棟）　鉄骨平屋建

（旧上毛モスリン事務所）　木造瓦葺2階建

（田山花袋の旧居）　木造茅葺平屋建

規　模　敷地面積　3,770.04㎡

建物面積（管理棟）　52.0㎡

（旧上毛モスリン事務所）　470.41㎡（延）

（田山花袋の旧居）　71.94㎡

設計・管理　館林市役所建設部建築課

施　行　青木建設工務所（旧上毛モスリン保存修理・附帯・展示設備各工事）

小林工務店（田山花袋の旧居移築保存工事）

栗原材木店（管理棟新築工事）

工　期　着工　昭和54年11月27日　完工　昭和56年11月28日

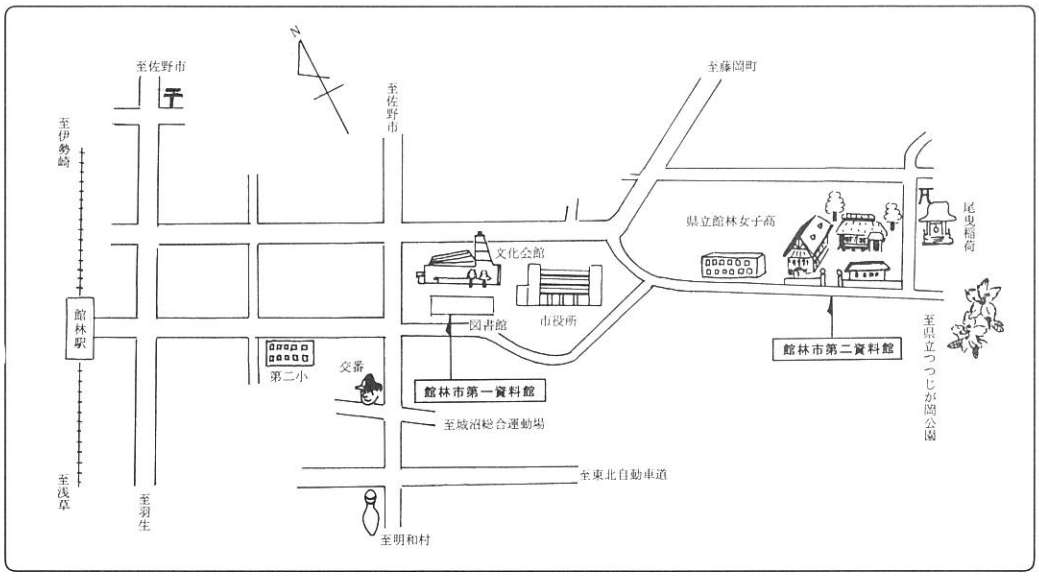
総工費　149,274（千）円（県費補助　35,169（千）円）　昭和59年3月31日現在

（内訳）土地購入費　70,420(県22,800)　田山花袋旧居保存工事費　6,930

旧上毛モスリン事務所保存工事費　45,784（県 8,869）附帯工事費 5,000

管理棟建設費 9,140　展示設備工事費 4,500　植栽工事費 7,500(県3,500)

案　内



交通案内　東武伊勢崎線館林駅下車

徒歩15分　（第一資料館）

徒歩20分　（第二資料館）

開館時間　午前９時～午後４時30分

休 館 日　月曜日・祝祭日の翌日

年末年始

その他展示準備期間等

入 館 料　無　　料

● お 問 合 せ

館林市教育委員会文化振興課

〒374 群馬県館林市城町３－１　　TEL. ０２７６－７４－４１１１（文化会館内）

（第二資料館）〒374 群馬県館林市城町２－３　　TEL. ０２７６－７４－９６６５

昭和59年３月31日　発　行